



学校だより

北海道中札内高等養護学校幕別分校
令和6年3月22日(金)
第 6 号
〒089-0615 中川郡幕別町南町 81 番地 1
電話 0155-55-2121
FAX 0155-55-2122

ユーモアで強くなる子どもたち

校長 太田 千佳子

3月、また卒業生を送り出す季節になり、10名の生徒が巣立っていきます。10名の生徒たちは、入学当初“とても自信のない子どもたち”だったと聞いていました。2年生になった10名に2年前に出会ったとき、自分からの自己表現もあまり多くはなかったように思います。

そんな10名がこの一年でとても大きな成長を見せてくれたと思っています。

最上級生としての自覚？学校生活への慣れ？などもあるかもしれませんが、友達の実存も大きかったのではないのでしょうか。「〇〇くんに会いたい」「〇〇さんがやるなら私も・・・」など、経験を拡げることができたのも、友達の実存のおかげ、と思っている人もいるのでは？と思います。相手を大切にするととてもやさしい10名でした。

幕別分校の生徒たちの成長を見る中で、人が成長するための大切なものの中に「ユーモア」があるように思えてきます。その理由を挙げてみようと思います。

- 1 ユーモアには笑顔がつきものであること
- 2 ユーモアを言うのも受け止めるのも心のゆとりが必要であること
- 3 ユーモアにあふれる空間は居心地がよいこと

「1 笑顔がつきもの」について。冗談を言い合って笑う人が増えることで、そのやりとりに加わっていない人も楽しくなってしまう・・・という幕別分校ならではの「笑顔の伝染」が起こっていたと思います。ユーモアのあるところには笑顔が実在します。

「2 ゆとりが必要」について。気持ちの余裕がない時には、冗談を言うこともできません。受け取る方も同じです。「そんな状況では冗談が通じない」ということを、生徒たちは幕別分校の仲間の中で学び、「今なら笑ってもらえそう」と空気を読むことも覚えたのではないかと考えています。心のゆとりは、ユーモアを生むと言ってもよいかもしれません。

「3 居心地がよい」は、1、2を合わせるとできる環境です。幕別分校の先生たちが作り上げる笑いの空気感を、生徒たちが自分たちでも作ろうとしてきたと思っています。居心地のよい空間を自分たちで作りながら3年間学んできたのだと思います。

今年卒業する10名は1年生の頃から、HRの時間に「大喜利」と称して、質問に対するユニークな回答を求められる学習に取り組んできました。1年生の頃に比べると、ウイットに富んだ回答ができるようになっており、思わず「座布団1枚！」と吹き出してしまいう回答がたくさんありました。また、回答を一つ一つ見ながら、生徒たちがユーモアを学び、たくましくなってきたことも感じる事ができました。

笑わせるために発したものでなくても、人を笑顔にする発信ができること、感じたこと、思いついたことを自信をもって表現できる姿は、社会に出て、とても必要な力だと思います。誰かのユーモアに「おもしろい」と笑うことのできる姿も、きっと新しい生活の場において仲間を増やすことにつながるでしょう。

ユーモアのセンスを磨いた10名の卒業生が、新しい環境でも新しい仲間と笑い合えることを心から願いながら、「おめでとう」と送り出したいと思っています。

卒業式

令和6年3月6日（水）第9回北海道中札内高等養護学校幕別分校卒業証書授与式が春を感じる穏やかな日に在校生、保護者、来賓の方々に見守られながら行われました。

今年度は、校長式辞、町長をはじめPTA会長からの御祝辞など、多くの方から労いや激励等、あたたかいお言葉をいただきました。

卒業生達も、みんなとのお別れとともに、新しいスタートを決意することができたと思います。これまで、幕別分校第9回生への御指導をいただいた地域の皆様をはじめ、御支援をいただいた保護者の皆様、誠にありがとうございました。今後とも御支援・御協力の程よろしく願いいたします。



卒業式担当：松橋



「歩一歩」「歩歩」「歩武堂々」…前を向いて、一步一步踏み出して

入学の頃はまだコロナの影響もあり、距離をとった人との関わりをする学校生活からのスタートで、クラス・学年も、どちらかといえばおとなしく静かな雰囲気でした。それが、徐々に友達関係ができ…そしてそんな関係が、少しずつ広がり、そして深まり…仲間意識が広がって行って、自分たちの居場所と感じてきたのではないかと思います。3年生になると、後輩とも関わっている姿がたくさん見られるようになり、ほほえましいなあ…と感じていました。この3年間、初めてのことにもチャレンジしたり、様々なことを経験したりして、積み重ねてきたことで、人の気持ちを考え、いろいろなことを感じて学び、自分たちの力になったと思います。みんなの心の成長を強く感じ、嬉しく思っています。

4月からは社会人として、それぞれの道へと進んでいくことになり、また新たな環境や人間関係が待っていますが、学校でつけた力を更に伸ばし、大きく成長してくれることを期待しています。

生徒たちが考えた学級目標

「万里一空…一つの目標に向かって努力し続けること」、そして、「雲外蒼天…努力して乗り越えた先には明るい未来が…」を胸に歩いて行ってほしいです。

3年1組担任：石田



「なりたい」でなく「なる！」

この幕別分校で、同じ学年、同じクラスになることは奇跡の出会いと言えるでしょう。その中で集まった5人。それぞれの個性を発揮しつつ、一番安心して過ごせる居場所が「自分たちの教室」だったのではないのでしょうか。3年間、それぞれの人々が、良い時も悪い時もありました。それでも、5人が絶妙なバランスでお互いに助け合い、励まし合えたことは、担任として誇りに思います。

入学時、いつも担任に頼っていたあの5人が…。年々成長し、自分で考え、自分の力で活路を見だしていく姿は、嬉しくもあり、寂しくもあり、何より喜びでした。

4月からは、それぞれの道を歩みます。山あり谷あり、たくさんの壁にぶつかるでしょう。そんな時、学級通信名『「なりたい」でなく「なる！」』を思い出してください。必ずできる！必ずやる！必ずやり抜ける！という前向きな気持ちで、挑戦を続けてほしいと思います。

担任として、彼ら彼女らと素敵で濃密な時間を過ごせたことに感謝しています。3年2組のみんな、卒業おめでとう！

3年2組担任：高橋



一年間を振り返って

「2年生はやることがいっぱいだよ」と言われてスタートした1年。現場実習、学校祭、見学旅行、デュアル実習と、本当に目まぐるしく毎日が過ぎていきました。楽しみにしていた見学旅行では、東京方面に行き、大都会の風景に「すごい！」と感動する生徒たちでした。自主研修では、計画通りに進まないこともありましたが、話し合っ解決しながら行程を進めることができました。トラブルを乗り越えて楽しく終わったことは、生徒たちの成長の証だと思います。

進路についても、たくさん考えた1年でした。3度の実習での経験から自分が進みたい道を考えて、方向性を決めることができました。行事や実習を終えるごとに、「自分たちでやってみよう」という気持ちが強くなり、たくましくなった2年生。人数は少ないですが、2年生の結束力と存在感は抜群です。最上級生として、自分たちらしいやり方で後輩を引っ張っていってくれると信じています。

2年1組担任：志賀



いつもどんな生徒が入学してくるのか？担任としても期待と不安を抱きながら入学式を心待ちにしていました。でも、今回は私が入院していたため、入学式にも参加できず、生徒に会えたのは4月下旬でした。初めて直接会って朝のホームルームをしましたが、みんなで歓迎してくれました。本当に嬉しかったです。

6名の男子クラスですが、初めてのことにみんな仲良く、学習や行事も楽しく活動していました。今年一年、何事にも取り組む姿や行動を見ていると、成長してたくましさを感じられました。4月からは、先輩となりますが何事にも挑戦し、更なる成長を期待しています。

1年1組担任：千葉



この間入学式があったと思っていたら、もう1年が過ぎようとしていました。入学当初は1年2組全員表情が硬く、休み時間になってもそれぞれ誰とも話さず、心配になって何度も教室を覗きに行きました。しかし、いつの間にか仲良くなっていき、笑顔でおしゃべりをする様子が増えたことで、一安心したことを今でも覚えています。

学校祭や宿泊研修といった行事では、全員で話し合っ何かを決めたり、協力し合ったりする場面がたくさん見られました。

現場実習や作業学習なども、全員気を抜くことなく、本人達なりにとても頑張る様子が見られ、また、自分の進路に真剣に向き合うことができるようになってきています。少しずつですが、確実に成長していく姿に、私自身も頑張らなければ、と日々励まされています。

2学年では春と秋の現場実習、学校祭、見学旅行などの各種学校行事があり、今以上に進路と向き合わなければならない大事な時期になります。今年1年間で学んだ事を生かして、さらに成長することができるよう期待しています。

1年2組担任：田代



中札内高等養護学校幕別分校校歌

「明日への希望」

作詞 松岡 達也
作曲 赤松 拓

はるか遠く続く道と
我らは歩き始めた
強く刻んだ希望と
胸に深く詰め込んで
輝くこの日に 強く願って
この手をつないで あふれる思いを
肩寄せ君と語ろう ここで
いつも 我ら 夢を抱いて

二度と戻ることのない
数えきれぬ思い出
迷い傷ついたとき

あのときをいつも思い出す
僕らはそのとき 何を見つめた
腫を開いて 明日に向かって
両手を高く大きく広げ
いつも我ら 思い抱いて

はるか大地 広がる空
星の瞬き 見つめて
尽きせぬ 流れの中

ただひたすらに生きていく
思いは果てなく 大空羽ばたく
希望の未来に 大空飛び立つ
いつしか夢をかえるために
いつも我ら 願いを抱いて

小さな両手に大きな夢をのせて
輝く未来を はなさず

羽ばたけ強く高く広く
いつも我ら 未来抱いて

